



10日、香港で、「逃亡犯条例」改正に反対し、警官隊と衝突する民主派デモ隊（EPA時事）

6/12

香港騒乱 怒る「103万人」

6/11 新道

逃亡犯条例案巡り反対デモ

【香港共同】香港で9日、中国陣線が主催し、今回で3回目。本土への容疑者引き渡しを可能にする「逃亡犯条例」改正案に反対する大規模デモが行われ、主催した民主派団体の発表によると103万人が参加した。終点の立法会議場の周辺で、デモ後に若者らが激しく警官隊と衝突、少なくとも警官8人が負傷した。警察は違法集会の容疑などで男女計19人を逮捕した。

（関連記事7面）

1997年の中国への返還以降、最大規模のデモで、米国や英国などでも反対デモが行われた。香港政府トップの林鄭月娥行政長官は10日、記者会見し撤回に応じない方針を表明。7月までの可決を目指すともみられる。中国外務省の耿爽副報道局長は、デモの背景に外国勢力による干渉があったとして「断固反対する」と述べた。

デモは民主派団体「民間人権

陣線」が主催し、今回で3回目。立法会周辺で、改正案採決などに備え「立法会包囲のリハーサル」を行い、香港政府に圧力をかけた。参加者は「希望」を象徴する白い服を着て「悪法を撤回しろ」と叫びながら香港中心部を行進した。警察はピーク時で参加者は24万人だったと発表した。

デモ後の衝突は、マスク姿の若者らが立法会に突入しようとして発生。鉄柵をなぎ倒すなどし、警官隊は催涙スプレーなどで応じた。香港メディアによると、若者ら100人以上が別の場所ですり込むなどし、10日朝までに警察に排除された。

香港は中国本土との間に犯罪人引き渡し協定を結んでいない。民主派は条例が改正されれば、共産党に批判的な人物の移送に利用される恐れがあると反発している。